

# 傷痍軍人・リハビリテーション

## 関係資料集成



全7巻 ●刊行概要

●体裁 A4判/上製/総約2,500ページ

●揃定価 175,000円+税(全3回配本)

●編 サトウタツヤ・郡司淳

●解説 サトウタツヤ(立命館大学)

郡司淳(北海学園大学)

上田早記子(天谷大学)

●推薦 吉田裕(橋大学)

上田敏(日本障害者リハビリテーション協会)

坪井秀人(国際日本文化研究センター)

### 第1回配本

2014年12月刊 本体50,000円+税 ISBN978-4-905421-70-2  
第1巻 制度・施策/医療・教育編I+解説  
第2巻 制度・施策/医療・教育編II

### 第2回配本

2015年5月刊 本体50,000円+税 ISBN978-4-905421-73-3  
第3巻 手記・文芸作品編I  
第4巻 手記・文芸作品編II

### 第3回配本

2015年11月刊 本体75,000円+税 ISBN978-4-905421-76-4  
第5巻 手記・文芸作品編III  
第6巻 手記・文芸作品編IV  
第7巻 手記・文芸作品編V

近刊▶2016年刊行予定  
編集復刻版  
近代日本PTSD関係資料集成  
〈全2巻(予定)〉 ●揃定価——50,000円+税 ●編・解説——サトウタツヤ

\*表示価格はすべて税別。

# 傷痍軍人・リハビリテーション

編集復刻版

全7巻

サトウタツヤ・郡司淳……●編  
サトウタツヤ・郡司淳・上田早記子……●解説

アジア・太平洋戦争下、戦場で負傷し、さまざまな障害を負って帰国した兵士たちに関する資料集成。

当時の法・制度を明らかにする例規や全国各地の療養所・リハビリテーション施設の概要、「美談」集を収録。とくに障害兵士自身による多数の文集を全国から集め、厳選して掲載した。

総力戦下の「銃後」対策・動員政策であると同時に、現在の日本のリハビリテーションの原点でもある「傷痍軍人」に関する資料集成として日本近代史とくに軍事援護・戦争文学・銃後史・障害者の歴史・社会事業史・福祉史等の研究者・研究機関に呈する。

「廃兵」「傷痍軍人」と呼ばれた、戦争により障害を負った兵士たちを日本政府はどのように遇したか。手厚い保護とケアは戦争遂行にどのような意味を持ったのか——当事者自身の言説を中心に貴重資料を厳選し、編集復刻!



六花出版

- 揃定価 175,000円+税
- 配本 全3回配本
- 推薦 吉田裕  
上田敏  
坪井秀人



六花出版 ①101-0051 東京都千代田区神田神保町1-42 電話 03-3293-8787 ファクシミリ 03-3293-8788

# 関連年表

年	関連事項
一九〇四	日露戦争
一九〇六	廃兵院法
一九一七	軍事救護法
一九二三	恩給法
一九三一	柳条湖事件
一九三三	傷兵院法。廃兵院は傷兵院に改称
一九三七	盧溝橋事件
一九三九	軍事救護法、軍事扶助法に改正
一九三八	傷兵院保護対策審議会
一九三八	国家総動員法
一九三八	傷兵院、厚生省外局の傷兵保護院に
一九三九	大日本傷兵軍人会
一九三九	恩賜財団軍人援護会
一九三九	傷兵保護院、軍事保護院に改称
一九三九	軍人援護会、全国の戦死者遺児の靖国神社参拝を実施
一九四〇	大政翼賛会
一九四一	軍事保護院援護局、各地方長官宛「傷兵軍人ノ配偶者斡旋ニ関スル件」通牒
一九四一	傷兵軍人奉公財団（結核疾患の兵士の職場復帰のため）
一九四一	真珠湾攻撃
一九四二	戦時災害保護法
一九四五	敗戦
一九四六	軍人恩給・軍事扶助法・戦時災害保護法廃止
一九五一	戦傷病者戦没者遺族等援護法
一九五三	恩給復活
一九五三	日本傷兵軍人会
一九五三	未帰還者留守家族等援護法

# サトウタツヤ

●立命館大学教授

かつて、白衣の勇士、がいた。ショーイグンジン。そのショーイグンジンと聞いて、何らかのイメージを持つことができるのは現在では五十歳以上の方々であろうか。子どもの頃の私にとって、街で見かける「傷兵軍人」の姿は日本が戦争をしていたことを直視させてくれる存在だった。長じて心理学史を専攻すると、心理学者たちが傷兵軍人に関わっていたと知った。職業訓練やリハビリテーションである。しかし、実際に史資料を集め始めてみると、意外にも難しかった。国が行っていた事業の記録なのだから、簡単にその全貌がつかめると思っていたのであるが、そうではなかった。

このほど、適切な方々の協力を得て、現実に存在した「日本の傷兵軍人」に関する史資料を編纂して世に問えるのは望外の喜びである。戦争の勇ましい面だけを見るのではなく、実際に傷ついた人、それを支援する制度と人に思いを馳せ、未来に対する複合的な想像力を逞しくすることに繋げていってほしい。

# 郡司淳

●北海学園大学教授

露戦争後の廃兵（のちに傷兵軍人と称される）は、「名誉の負傷者」と喧伝されながら、国家によってその窮状が放置されたため、戦争の悲惨さや社会矛盾を象徴する存在として、文芸作品に好んで取りあげられるとともに、世間の好奇の視線にさらされました。日中戦争以後には、総力戦を戦い抜くための労働力として、その「残存能力」が国家に注目されただけに、リハビリテーションの先駆的な取り組みの対象ともされます。

本資料集成は、このように時代に翻弄された傷兵軍人の眼をともし、戦争の時代を読み解くことを可能とすべく、彼らに対する国家の施策と医療に留意しつつ、その体験記と文芸作品を中心に編まれたもので、現在では入手が困難な諸資料を収録しております。本集成が、傷兵軍人はもとより、近代日本における戦争と民衆、医療の研究にひろく利用され、平和な未来を創造する一助となれば、編者の一人としてこれにぐる喜びはありません。

# 収録資料一覧<sup>抄</sup>

## ●制度・施策／医療・教育編

### 第1巻

- 廃兵手当に関する調査●社会局社会部●一九三〇・一
- 社団法人大阪保養院記念帖●内藤桐彦●大阪保養院清算事務所●一九三五・七
- 傷兵院要覧●傷兵院●一九三六・一〇
- 白衣の勇士へ●高神覚昇●新義真言宗智山派●一九三七・二
- 大日本傷兵軍人会東京府支部趣意書並会則●一九三七・二
- 昭和十二年十一月傷兵軍人の職業輔導に就て●陸軍省内在郷軍人職業輔導部●一九三七・二
- 傷兵軍人のための温泉療養所の提唱 資料第一号●横田忠郎●日本社会事業研究会●一九三八・一
- 〔秘〕帝国傷兵保護院法案関連資料●一九三八・二
- 傷兵保護と銃後の使命●傷兵保護院●一九三八・九
- 傷兵軍人職業再教育事業概要●傷兵保護院●一九三八・二二
- 国を護つた傷兵護れ●傷兵保護院●一九三八・二二
- 傷兵軍人ノ為ニ●高田陸軍病院●一九三八・二九
- 傷兵軍人と悟りの境地●精進会本部（調布高等女学校内）●一九三九・一
- 傷兵保護について●傷兵保護院●一九三九・一
- 臨時東京第三陸軍病院（写真帖）●臨時東京第三陸軍病院●一九三九・三
- 傷兵軍人と職業●香川県社会課●一九三九・三
- 昭和十四年四月道府県傷兵軍人職業再教育事業概要●傷兵保護院●一九三九・四
- 昭和十四年十月傷兵軍人医療保護関係規程 ●軍事保護院業務局●一九三九・一〇

### 第2巻

- 長崎県傷兵軍人職業輔導所落成記念絵葉書 昭和十五年三月●長崎県北高来郡諫早町●一九四〇・三
- 昭和十五年十月傷兵軍人職業輔導組織の運用について●東京府職業課●一九四〇・一〇
- 昭和十五年十一月道府県傷兵軍人職業再教育事業概要●軍事保護院●一九四〇・二二

### 第4巻

- 昭和十六年一月自営業傷兵軍人概況 秘●東京府職業課●一九四一・一
- 昭和十七年二月一日現在輔導事業要覧●傷兵軍人福岡職業輔導所●一九四二・二
- 平塚傷兵工場要覧●株式会社平塚自動車部品製作所●一九四二・三
- 昭和十七年度傷兵軍人中等学校教員養成所一覽 秘●一九四二・二
- 戦傷肢体不自由者職業輔導と医学の協力 部外者秘●神中正●傷兵軍人福岡職業輔導所●一九四二
- 戦傷上肢切断者と農耕●神中正●傷兵軍人福岡職業輔導所●一九四三
- 戦傷切断者の職業と義肢●神中正●傷兵軍人福岡職業輔導所●一九四三
- 昭和十八年傷兵軍人職業保護必携●茨城県●一九四三
- 新版 傷兵軍人勤勞輔導（労務管理全書第二十巻）●牧村進・辻村泰男●東洋書館●一九四五・四
- 傷兵保護院 傷兵軍人大阪職業輔導所概要●傷兵軍人大阪職業輔導所（年月不詳）
- 軍事保護院 国立傷兵軍人大阪職業輔導所概要●傷兵軍人大阪職業輔導所（年月不詳）
- 整形外科より見たる戦傷肢体不自由者の適職選定●神中正●傷兵軍人福岡職業輔導所（年月不詳）
- 傷兵軍人職業再教育の手引●財団法人啓成社（年月不詳）
- 後療法指針●臨時名古屋第二陸軍病院●（年月不詳）
- 職業準備教育規定●臨時名古屋第二陸軍病院●（年月不詳）

### 第5巻

- 青人草上巻●軍事援護会編●軍事保護院●一九四一・二二
- 青人草中巻●軍事援護会編●軍事保護院●一九四一・二二
- 青人草下巻●軍事援護会編●軍事保護院●一九四一・二二
- 白衣服集●三上卯之介●教育社●一九四一・一〇
- 篠原 創刊号●傷兵軍人石川療養所●一九四一・二二
- 大鳴●傷兵軍人福岡療養所 八起俳句会●傷兵軍人福岡療養所●一九四一・二二
- 起ち上る人●山下燮●弘学社●一九四二・一〇
- 義肢に血の通ふまで●保利清●汎洋社●一九四三・二二
- 御楯 大東軍戦争傷兵軍人歌集●佐々木信綱・伊藤嘉夫編●千歳書房●一九四三・三
- 麦の穂ずれ●前本一男●日本文章社●一九四三・七

### 第7巻

- 傷兵歌集●中河幹子編●報国社●一九四三・七
- 傷兵軍人詩集●寺田弘編●四季書房●一九四三・一〇
- 傷兵軍人詩集 再起の旗●木村直祐編●大統書院●一九四三・二二
- 恩寵記●黒岩東五●小学館●一九四四・二二
- 愛の記録●小寺正三●大阪新聞社●一九四四・九
- 統秋耕●五十嵐播水●傷兵軍人兵庫療養所●一九四四・二二

### 第3巻

- 手記・文芸作品編
- 傷兵軍人成功美談集●大日本軍人援護会編●一九三八・二
- 傷兵軍人聖戦歌集 第一輯●佐佐木信綱・伊藤嘉夫編●人文書院●一九三九・一
- 傷兵軍人聖戦歌集 第二輯●佐々木信綱・伊藤嘉夫編●人文書院●一九三九・二
- 傷兵軍人更生感話●佐藤定勝編著●モナス●一九四〇・七
- 職業軍人再起録●治安部警務司●満洲国警察協会・満洲軍人後援会●一九四〇・一〇

# 帰還兵の障害問題としての

## 「傷痍軍人」問題

●吉田裕

二〇一三年一月三日、日本傷痍軍人会の解散式が行われた。最盛時には三五万人に達した会員数も、解散時には五千人に減少し、平均年齢も九〇歳を越えているという。まだ、個々の生存者はいるものの、「帝国陸海軍」に軍籍を置いた傷痍軍人は、社会集団としては、その歴史を終えたといえよう。ところで、傷痍軍人に関する研究が日本で始まったのは、一九九〇年代以降のことだった。軍事史研究を忌避する傾向があった戦後の歴史学界において、本格的な軍事史研究が始まったのも、ちょうど、この頃のことである。アメリカのベトナム戦争、ソ連のアフガン戦争、そして湾岸戦争などにおける帰還兵の肉体的・精神的障害の問題や社会復帰の困難さが、日本社会で広く認識されるようになった事実も、傷痍軍人問題が研究の主題になり始めたことと、深く関係しているだろう。

とはいえ、傷痍軍人問題に関する研究は、まだ始まったばかりである。この研究を担ってこられた研究者たちの手になるこの浩瀚な資料集が、研究のいっそうの発展のための大きな契機となることを願ってやまない。

(よしだ・ゆたか 一橋大学大学院社会学研究科教授)

## リハビリテーションの歴史を学ぶのに好適の資料

●上田敏

現在リハビリテーション(以下リハと略)に携わっている理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)などの専門家は計約二〇万人と非常に多い(ちなみに医師は全科を併せて約三〇万)。

その出発点となる日本最初のPT・OT学校(清瀬の東京病院付属リハ学院)の開校も、日本リハ医学会の発足も一九六三年であったし、第一回PT・OT国家試験とPT協会・OT協会の発足は一九六六年であった。

しかし、このことから日本のリハには半世紀の歴史しかないと考えてはならない。アメリカのリハの起源はほぼ一世紀前(一九一七年)であったが、それとほぼ同時期に高木憲次(後に東大整形外科教授)は小児の「療育」を提唱し実践していたし、特に一九三〇年代からは日中戦争の戦傷兵(傷痍軍人)対策として、国(軍)が積極的に乗り出し、臨時東京第三陸軍病院(相模原)をはじめとする多数の施設で、当時としては最高の医学的・職業的リハ、義手・義足製作・訓練を行ったのである。

これが戦後のリハに受け継がれた。臨時東京第三陸軍病院が一九五三年に東京に移って国立身体障害者更生指導所となり、それが更に所沢に移って現在の国立障害者リハ・センターとなったのが最も象徴的な例である。清瀬の東京病院の前身も傷痍軍人結核療養所であった。

物事の本質を深く理解するには歴史を知らなければならぬ。この資料集成は得難い資料の発掘・収集の労作であり、日本のリハの歴史を学ぶための最良の手引きである。

(うえだ・さとし、日本障害者リハビリテーション協会顧問、元東京大学教授)

## 推薦します

## 戦場と銃後の はざまからの声

●坪井秀人

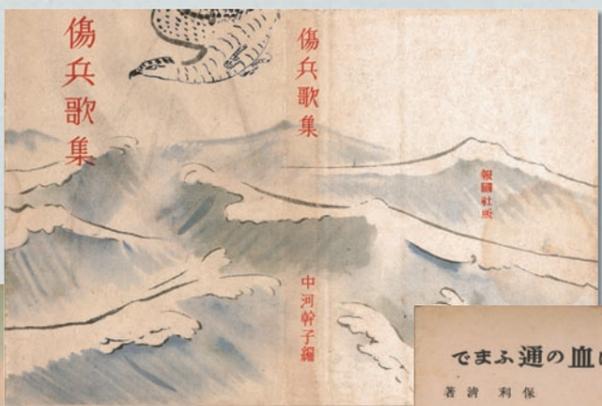
今年二〇一四年は第一次世界大戦後一〇〇年という記念の年。総力戦の戦場となったヨーロッパではそのトラウマはいまだに深く、私もこの夏数日ウィーンでいくつかの展示を見たが、なかでも軍事史博物館の展示は圧巻だった。とりわけ目にとまったのが傷痍軍人に関する展示。彼らが着用した義肢などが展示され、戦争が個人の人生をいかに深刻に変えてしまったのかを静かに訴えていた。

傷痍兵や傷痍軍人は、戦場にあつては置き去りにされがちで、帰還後は社会復帰できずに苦しみ、戦後は忘却の歴史と闘わなければならなかった点で、戦場と銃後のはざま、生と死の境界の苛烈な状況を生きた人々であった。彼らの生身の声を後世の私たちはどれだけ聞き届けられるだろうか。戦争というものの本質が彼らの声から浮かび上がってくるのだとしたら。

戦時体制は傷痍軍人たちを戦争犯罪の犠牲者ではなく(更生者)あるいは(成功者)として、彼らの語り(美談)に仕立てて巧妙にプロパガンダに利用しようとした。一方で、彼らが詠んだ短歌や詩が多数作品集に編まれていて、そこには外向きの美談とは一線を画する豊かな内面表現が垣間見える。

このたびの資料集成は、傷痍軍人の人々が残してきた声の原点として、無視することのできないものである。私などは街角で傷痍の軍人さんを見た記憶のあるほぼ最後の世代かも知れないが、その意味でも、彼らの声が歴史の層の中に埋もれてしまうことのないように、これらの資料にじっくりと向き合ってみよう。

(つばい・ひでと 国際日本文化研究センター専任教員)



戦傷切断者の職業と義肢

軍事保護院専門委員 神 中正 一  
九州帝國大學教授

現在戦傷四肢切断者に對して義肢はどの程度に進んでゐるか、切断者が義肢によつてどれだけ職業生活に於て能率を發揮する事が出来るかといふやうな問題の概略をお話したいと思います。

前大戦に於きまして参戦各國中、獨、英、佛では戦傷四肢切断者の義肢が非常に進歩致しました。立派な論文や單行本が出て居ります。殊に獨逸の義肢構造に關する研究は、これ以上はどうかと思はれる程凡ゆる考案が生まれて、理論方面ではシェーナの大腿義足に於ける、ビーザルスキーの義手に關する論文など、それぞれ今日の基礎をなして居るのであります。支那事變勃發以來此方面に首を突込んだ私も、これではどうもヨーロッパの眞似をするより手のつけやうがないではないかといふ感じがありました。それ程我國が立ち遅れてゐたことは、一面さういふ必要がそれ迄なかつたからでもあります。まことに遺憾に堪へなかつた次第であります。兎に角前大戦時及以後各國の研究は今日多數の皇軍四肢切断者に對する諸問題の解決に非常に役立ちまして、前大戦時に失敗した跡を避けて成功した道を進むといふ利便も大きかつた事は言ふまでもないでありますけれども、もとより吾々は歐米の眞似で終始した譯ではないのであります。義肢機構上の問題に就きましても、日本

的な構造、新しい素材の使用、義肢と人体が一体となつて活動するに必須の訓練や作業習熟法、或は戦傷者に對する義肢の支給修理等の行政的方面の問題など、色々日本独自の道が開け、軍官民一体となつて現在軌道に乗つて進みつゝあるのは國家の爲め御同慶に堪へない次第であります。

第一 義肢の種類

さて現代の義肢を構造及目的から分類しますと凡そ下表のやうになります。

義足	一、治療義足	義手	一、裝飾義手
	二、裝飾義足		二、能動義手
	三、作業義足		三、裝飾作業兼用義手
			四、作業義手

治療義足といふのは完成した裝飾義足を裝着する前に病院入院中早期に起立、歩行、作業の訓練に使ふものでありますから、外見はどうでもよいのであります。竹の棒脚をギブスの断端袖にとりつけたやうな簡單なものから、現在臨時東京第一陸軍病院や横須賀海軍病院で患者治療に使はれるる進歩した型式(このやうな進んだ治療用義足は恐らく現在歐米でもやつてゐない)と想像します。陸軍では保利軍醫少佐、海軍では井口軍醫少佐の御努力によるところです)のものがあつて、裝飾用といふのは自然肢の形態を具へ、大腿義足ならば膝に關節がつき、或型式では膝關節を具へたものであります。

アジア・太平洋戦争の時代(1931~45年)、日本軍・政府と地域社会は、戦場で戦う兵士に思い残すことなく命を捧げさせるために、もうひとつの「戦場」である「銃後」をどのような慰撫し、激励し、また管理し、抑圧したのか。忘れ去られた動員のありよう、軍事援護の実態の貴重資料を呈示し、明らかにする。

働き手を失つた家族、戦没兵士の遺家族、傷痍軍人、帰還兵士に対して、女性相談員や方面委員を使い、「未亡人」の就職の世話、性の管理、恩給の配分のトラブル解決、傷痍軍人の結婚、等々、あらゆる手厚いケアと精神的・物質的な支配が展開された。同時に、前線の兵士に、郷土のための戦いを意識させるべく、慰問文集が編まれ、「後方支援」を担う役割も果たす。女性史、軍事史、軍事教育史、戦時生活史をはじめとする近代史研究に必備の「銃後」資料66点を厳選し復刻刊行!

- A4判/上製/総3,300ページ
- 揃定価——225,000円+税(全3回配本)
- 編・解説——ノ瀬俊也(埼玉大学) \*解説は第1巻巻頭に収録
- 推薦——吉田裕(一橋大学)

加納実紀代(女性史研究者)  
成田龍一(日本女子大学)  
前田一男(立教大学)

- 第1回配本 第1巻〜第3巻(2012年12月刊行) ISBN978-4-905421-28-3
- 第2回配本 第4巻〜第6巻(2013年5月刊行) ISBN978-4-905421-32-0
- 第3回配本 第7巻〜第9巻(2013年12月刊行) ISBN978-4-905421-36-8

編集復刻版 『私設社会事業』 全4巻

戦争への突人と経済不況の中、社会的弱者が増大し、同時に社会事業団体が経営難に陥つた一九三一年、事態打開のため創立された全日本私設社会事業聯盟は、全国に社会事業団体の連帯を呼びかけ、法的整備を政府に訴えていく。機関誌である本誌には、日本全国及び植民地の社会事業全般に関する情報と論考が満載されている。路上生活者支援、結核や性病などの医療保護事業、農山漁村救済更生事業、「救済」事業、母子保護事業、傷痍軍人支援事業、出獄人保護事業、少年保護事業、里子事業、養老事業など——困窮者への支援と救済に心砕いた民間の社会事業者たちの奮闘を明らかにする資料である。「聯盟」の活動をつぶさに報告する事業報告や大会議案、「罹災救助基金法改正経過概要」「私設社会事業従事員待遇調査」など関連資料もあわせて復刻刊行する。

して、日常生活に使用するだけでなく、或職業例へば事務的職業の通勤者などではそのまゝ職業に使はれますから作業(職業)義足の性質を持つやうになります。作業(職業用)といふのは、職業の種類によつて裝飾義足では働けない場合、例へば農耕用などの職業上の要求に應じた特殊の構造を持つものであります。陸海軍治療用義足は屢々そのまゝ、或は改造されて職業用義足として使はれて居りますし、又僻地の農民には竹や縄で編んだ断端袖に竹の脚を取りつけ職業用義足を自作してゐる人も往々見受けるのであります。要するに形はどうでもよい、職業的に使ひ易いやうな構造を持つものが職業義足であります。

裝飾義手といふのは形だけ自然肢に似た義手でありまして人形の指のやうに指や腕關節や肘關節を自分の欲する肢位に固定し、手袋をはめれば外見上腕のない人には見えない事を主眼とするものであります。それ故簡單な關節をつけ、指や手の形は出来るだけ本物に近く、歩く時の手の揺れ具合などなるべく自然に見えるやう、又永く裝着しても苦にならぬやう出来るだけ軽く作るのであります。日清日露戦役後の義手と言へば全部此裝飾義手だったのであります。能動義手といふのは切断者自身の筋力によつて義手の指が或程度開閉したり、腕關節の廻轉、肘關節の屈伸運動等が自動的に行はれまして、之によつて或程度日常動作の要請に應じやうとするものであります。けれども之は後に述べますやうに要するに不成功に終つてゐるのであります。現在日本では殆ど作られてゐないのであります。作業義手といふのは外見に拘泥せず、なかつた腕の代りに作業用具と連結し或は作業対象に直接

一

二

三

四

して断端の動きによつて作業用具又は作業対象物を作業目的通りに動かす或は固定するのが唯一の目的であります。陸海軍では上肢切断者の誰にも向くやうな機構を持つ萬能とも言ふべき種類の作業義手が支給されてゐます。けれども多くの萬能と名の附いた器械のやうに嚴密に言へば萬能ではないのであつて、或る特殊作業ではもつと簡單な機構でよい事もあり、或は特別の機構が必要のものもあり、その要求に應じたのが職業義手であります。之は退院後の職業保護に任じてゐる軍事保護院で研究され支給されてゐます。なほ萬能作業義手の上に履ひをつけ、それに裝飾用の手をつけた型式がありますが、之は裝飾作業兼用義手ともいふべきものであります。陸軍で十五年式の名稱が與へられて廣く支給されてゐます。なほ應急用として手製の作業義手を使つてゐる人も時々僻地の農村に見受けられますが、例へば断端に木綿の袋をかぶせて肩から吊り、袋の先端に輪を取りつけ、それに鞆の柄を差込んで働いてゐる人があります。これなどは最も簡單な作業義手と呼ぶべきでありませう。

第一 義足に就て

義足は義手よりも問題が簡單であります。特に下腿義足では一層問題が少いのであります。短断端者を除き、今日のところ極めて良好なる能力と切断者の信頼を得るに成功してゐます。下腿短断端の問題は餘りに専門的に亘りますから省略致しまして、二三下腿義足に就て御話します。

何故下腿義足が文化人の職業生活に於て高度の作業能力を持つ人工的代償となるかといふと、第一は切断者が自由に自己の筋力によつて統御し、断端の能動運動を義足に傳へる膝の關節が残されてゐ



- A4判/上製/総約1350ページ
- 揃定価——100,000円+税(全2回配本)
- 解説——寺脇隆夫(元長野大学教授)
- 推薦——菊池正治(元久留米大学教授)
- 第1回配本 第1巻・第2巻(2012年6月刊行) ISBN978-4-905421-21-4
- 第2回配本 第3巻・第4巻(2012年12月刊行) ISBN978-4-905421-24-5